

9437

NTTドコモ

NTT
docomo



IR部長 高木 克之 氏



～収益構造の転換が奏功し、業績回復基調が鮮明～

今年年間利益計画を上方修正

● 好調な決算、強固な財務基盤

・2016年度の業績予想について、営業利益を300億円増の9,400億円、フリーキャッシュフローを400億円増の6,400億円に上方修正しました。負債比率(有利子負債/株主資本)は0.04倍と、当社の財務状況は負債が少なく強固な水準が継続しています。

● NTTグループ営業利益への寄与は約60%

・当社はNTTの連結子会社であり、株式の約66%をNTTが保有しています。NTTグループ全体に占める当社の寄与は、営業収益において約40%、営業利益においては約60%です。
・当社は1992年に営業を開始し、国内携帯電話市場における契約数シェアは2016年9月末時点で約46%と業界トップです。2016年度上期の携帯電話契約数は前年同期比6%増となり、解約率は0.58%と低水準で推移しています。

業績の改善と収益構造の変化

● 通信事業の回復

・音声・パケットARPUはお客様のご利用が増えたことにより、「カケホーダイ&パケあえる」導入前の水準へ回復が継続しました。その結果、通信事業の営業収益は前年同期比496億円増の1兆8,566億円、営業利益は1,046億円増の5,247億円となっております。

● 通信以外の事業の利益成長

・また、通信以外の事業領域であるスマートライフ領域収入が増加するなど、収益構造が変化しつつあります。特にコンテンツサービス(動画・音楽配信、電子書籍)、金融・決済サービスなどが着実に成長しています。
・その結果、スマートライフ領域の営業収益は前年同期比239億円増の4438億円、営業利益は185億円増の609億円となっております。

楽しく、安心、便利でお得な社会へ

● 更なるネットワークの進化

・2017年3月にスマートフォン国内最速の500Mbpsサービス、さらに3月以降に682Mbpsサービスを開始予定です。今後の5G導入を見据え、ネットワーク基盤の更なる高度化を推進します。

● 「更なる価値」の提供

・当社はもっと楽しく、もっと安心で、もっと便利でお得な「更なる価値」をお客様に提案するために、「サービスの創造・進化」、「パートナー企業との協創『+d』の促進」、「あらゆる基盤の強化」の3つの柱を掲げ取り組んでいきます。

株主還元の強化と社会貢献を重視

● 配当利回り3%超、自社株買いも

・今期予想配当は前期比10円増配の80円を予定しています。その結果、今期予想配当性向は45.3%と高く、11月29日現在の配当利回りは約3%を超えています。
・当社はこれまで業績が減収減益となった2014年度でも配当を維持、増配しており、今後も安定的・継続的な配当を実施していきたいと考えております。
・当社は2016年2月1日～12月31日の間に5000億円を上限とする自己株式の取得枠を設定しています。10月31日までに4218億円が取得済みで、取得枠の残額は782億円となっております。

● 株主還元と社会貢献

・当社は配当については安定的・継続的に実施し、自己株式の取得についても積極的にを行い、株主還元の強化に努める意向です。
・また、業界のリーダーとして、災害対策や地球環境保全・社会貢献活動を積極的におこなっております。今後も社会的課題の解決に向け業界をリードしていく役割を担っていると認識しています。
・今後も「お客様サービスの向上」と「企業の持続的発展」の両立に全力で取り組んでまいります。